

第48回衆議院議員選挙に対する見解

臨時国会冒頭での理由なき衆議院解散により第48回衆議院議員選挙は、10月10日公示、同22日投開票により行われた。今衆議院議員選挙は秋の闘いの只中、特に年末手当獲得闘争の最中での選挙闘争であった。JR貨物労組はたしかおる選挙闘争の敗北を踏まえ、すべての組合員が自らの権利である選挙権を行使するために、①反自民・反安倍政権を掲げ、②組合員の生活に直結する鉄道貨物輸送の復権と憲法改悪阻止のため、③34名の選挙区候補者の推薦決定を行い、④組合活動として選挙闘争を担ってきた。

各級機関は組合員との総対話を通じて組合員の政治意識や権利意識を高めつつ、自らの問題として今次選挙闘争を職場・地域から闘い抜いてきた。しかし、一部の地域では推薦決定にあたってJR連合からの妨害も見受けられた。

今回の衆議院議員選挙は期日前投票が増えたにもかかわらず、台風の影響もあり投票率は53.6%と戦後2番目となる低投票率となった。自民、公明両党で309議席（現時点）を維持し、与党が大勝した。自民党は国会運営を有利に進められる「絶対安定多数」を確保し、安倍首相が勝敗ラインとしてきた「自公で過半数維持」を大きく超えたことで、首相は続投すると見られる。

一方、枝野幸男・元官房長官が立ち上げた立憲民主党は公示前勢力の15議席から大きく躍進して54議席を獲得し野党第1党となったが、小池百合子・東京都知事が率いる希望の党は公示前勢力を割り込み49議席と失速した。共産党と日本維新の会はともに議席を減らし、社民党は小選挙区で1議席を得た結果となった。貨物労組が推薦決定した34名のうち21名が当選したが、立憲民主党は結集軸を明確にして闘ったものの、反自民・反安倍政権を掲げつつも野党共闘をつくり出すことができずに敗北したと言える。

この選挙結果に踏まえ安倍政権は憲法改悪に突き進むことは容易に推察できる。そして来年は国民投票が政治スケジュールに上ってくることを踏まえ、良心ある全ての人々との広範な戦線づくりをしていかななくてはならない。改憲を阻止し、鉄道貨物輸送の復権をかけて更なる運動の前進を勝ち取らなくてはならない。そのためにも各級機関の飛躍をかけてJR貨物労組は総団結して歩いていくことを明らかにし、第48回衆議院議員選挙に対する見解とする。

2017年10月23日
日本貨物鉄道労働組合
(JR貨物労組)